

<テーマ> 「光と色と言葉の探究」

<テーマ設定の理由>

園庭のない保育園であるため、室内や隣接公園などで探究できる活動を設定した。3歳児・2歳児の表現活動の深まりにつながるようにしたいと考えた。夏の戸外活動時に、日向と日影の違いに気づき、体感の違いや言葉への興味を抱いたのを契機に、光と影、透過性のある教具による混色のおもしろさに気づき興味を広げようとする探究活動につなげたいと考えた。

<振り返りによって得た保育者の気づき>

光と影に色を加わることで、より園児の表現活動と一体化して探究の幅が広がるのではないかと思い、テーマ設定に色を加えた。

光と影の遊びから、見える立体物に光を当てることでまた別の世界が表れてくる驚きと面白さを知ることができたと思う。この気づきにより、表現活動や見立て遊びが多変化した連続性のある活動に展開できると考えた。

また、今回は、2・3歳時を対象としたため、三原色を起点に、色を作ることができる基本的な仕組みを体感する活動が主軸になった。透過性のある素材と、不透過性の素材の違いにまでは気づきは深まらなかった。が、混色の美しさや絵具は混ぜすぎると黒くなっていくことは体感しながら、自分の色を作ることを楽しめることができた。さらに、園児一人一人の色のイメージを言語化して言葉による表現活動を連動したいと考えたが、比喩表現は引き出せたが、まだ深めきれなかった反省が残った。今後、日本古来の色を表す表現のような独自の感覚と、色の違いを感じ取る感覚のはぐくみにつなげていけたらと思っている。

